

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：34319

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02393

研究課題名（和文）描画のプロセスにおける想像と創造の関わりの検証

研究課題名（英文）The cognitive process of drawing focuses on imagination and creation

研究代表者

齋藤 亜矢（SAITO, Aya）

京都芸術大学・文明哲学研究所・教授

研究者番号：10571432

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：チンパンジーの物遊び、およびチンパンジーとヒトの子どもの描画行動の比較研究、および考古学や人類学の知見を総合しながら、人類史における、遊びや道具使用、道具制作、言語の誕生などの行動の進化とアートの認知基盤の発達との関連を明らかにした。また、アーティストの制作プロセスにおける想像や創造の役割について認知科学の視点から考察し、アートの本質を踏まえた保育や美術教育のあり方を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

比較認知科学および発達心理学など進化や発達の視点と、考古学や人類学などの知見を総合し、学際的な視点からアートの認知基盤について明らかにした。また、アーティストおよび、人類学者、考古学者、保育や教育分野の実践者や研究者など、学際的な議論を多くおこない、総合的な視点から保育や美術教育のあり方を検討した。それらの成果を論文だけでなく、一般向けの書籍や雑誌等に発表したほか、講演やワークショップなどを通して共有し、メディアなどでもとりあげられた。

研究成果の概要（英文）：By comparing chimpanzee play and the drawing behavior of chimpanzee and human children, along with archaeological and anthropological findings, we examined the relationship between the evolution of the cognitive basis of behavior, such as play, tool use, tool making, and the birth of language, and the development of the cognitive basis of art in human history. Furthermore, we discussed the role of imagination and creation in the making process of artists to apply them in childcare and art education from the perspective of cognitive science.

研究分野：認知科学

キーワード：アート 遊び 創造 想像 人類進化

1. 研究開始当初の背景

子どものころは絵を描くことが好きだった人も、おとなになると絵は苦手だと敬遠する人も少なくない。その背景には、一般に写實的に描かれた「上手い絵」がよい絵であるという一元的な価値観にさらされてきた影響も少なくない。しかし芸術には、表現者の心の痛みを緩和する効果や、鑑賞者の心感動させる効果があり、多くの人が表現や鑑賞を楽しめるような素地をつくることは、精神的な健康や生活の質をあげるために有用と考えられる。では、保育や美術教育において、どのような素地を育むべきか。そのためには、アートとはなにか、創造性とはなにか、その認知的基盤をふまえた根本からの議論が必要である。

代表者はそれまで、進化や発達の視点から、描画の認知的な基盤について研究をおこなってきた。おもに、ヒトの幼児がなぐりがきから表象描画に移行する時期の認知的な変化をチンパンジーと比較した研究、および「なぜ写實的に描くことがむずかしいのか」をテーマに、図形を模写するときの視線と描線の解析から「見る」と「描く」をつなぐ認知的なプロセスへのアプローチである。これらの研究から示唆されたのは、表象的な絵を描くホモ・サピエンスならではの認知特性として、見立ての想像力(パレイドリア)があること、その背景に言語発達が関連していることである。さらにこの言語発達にともなう認知機能の変化が、写實的に描くことのむずかしさを生んでいることについて論じてきた。

美術教育のなかでも、想像力や創造力は重視されるが、これらの能力の認知基盤が明らかではないため、抽象的な概念として扱われがちである。代表者らの研究では、子どもの描画でも、白紙に描くよりも先に図形があると、見立ての想像力がはたらき、普段と異なる創造的な絵が生まれやすいことが示唆された。ピカソの制作過程を記録した映画でも、ピカソが自分の描線をさまざまな物に見立て直して描いていく様子がおさめられている。デザイナーなどのアイデアスケッチの場合も、とりあえず手を動かすことでアイデアが生まれやすいということが経験的に知られており、創造性の手がかりに想像があることが予想されるが、そのメカニズムは明らかではない。

2. 研究の目的

(1) アーティストの制作過程における想像と創造

アーティストが、どのような思考過程で制作をおこなっているのか。アーティストの制作のプロセスの観察やインタビュー、文献調査を通して、制作のプロセスにおける想像と創造との関わりを明らかにする。制作のプロセスに認知科学の視点からアプローチすることで、アートの本質的な意義を問い直す。

(2) アートの認知的な基盤についての進化的考察

アートは、その行為が特定の目的に直接むすびつかず、それ自体が目的であるという定義上、生存や繁殖などの適応的意義から進化的な由来を説明することが容易ではない。一方で、その自己目的的な特徴は、「遊び」にも共通するものである。「遊び」は人間以外の動物、とくに哺乳類や鳥類では広くみられるものであるが、基本的には子ども期に集中してみられる行動である。ヒトは例外的におとなになっても遊ぶことが、文化や芸術の誕生に寄与してきたとされる。その背景には、自己家畜化による幼形進化の影響が考えられるが、そのことが具体的にどのようにアートの誕生に関わったのかは論じられてこなかった。そこで、アートを生み出したヒトの認知的基盤について、進化と発達の視点からアプローチする。現存するなかでヒトに最も近縁なチンパンジーを対象とした描画行動や遊びの研究と、子どもの絵の発達についての発達心理学的研究における成果をまとめ、考古学や人類学の知見と統合しながら、人類史におけるアートの認知的基盤の進化のプロセスを明らかにする。

(3) アートの認知的な基盤に基づく保育や美術教育のあり方の検討

上記の研究を通して、アートの本質や、想像や創造などアートに関連する認知的基盤のルーツについて明らかにし、アートの表現や鑑賞のプロセスがヒトの心にもたらす作用について考察する。保育や美術教育の分野の研究者や実践者との議論をおこないながら、保育や美術教育のあり方を検討する。

3. 研究の方法

(1) アーティストの制作過程における想像と創造

アーティストへのインタビューのほか、描画過程の観察、書籍やカタログに執筆されたテキスト資料から、制作のプロセスについての発言を収集した。京都芸術大学のデッサン学研究会に参加し、油画、日本画、小説、映画、美術史など、異分野の専門家と、デッサンとはどういう行為か、どういう方法で学ぶべきかなど、教育への応用をふまえて、学際的な議論をおこなった。また東京大学生産技術研究所のプロジェクトと連携して、北海道の Memu earth lab. を拠点に、4名のアーティストの制作プロセスを観察するフィールドワーク、およびインタビューをおこな

った。

(2) アートの認知的な基盤についての進化的考察

これまでに代表者らが京都大学霊長類研究所の共同利用研究制度を利用しておこなってきたチンパンジーの描画実験の描画のアーカイブ化をおこなったほか、過去の記録映像と作品から、ストロークの特徴や描き順の分析をおこなうため、デジタルアノトペンを用いて再録し、描線の軌跡をデジタル化した。京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリにおいて、チンパンジーの運動場にさまざまな道具を導入したときの自発的な遊びを観察した映像から、見立て遊びに関連する例を分析した。国立民族学博物館の共同研究「描かれた動物の人類学」に参加し、動物を描くことや想像物を描くことの認知基盤について、および、表現の内発性と外発性について発表し、人類学者やアーティスト等とともに学際的な議論をおこなったほか、狩猟採集のフィールドワークに参加した。

(3) アートの認知的な基盤に基づく保育や美術教育のあり方の検討

『児童心理学・発達科学ハンドブック』において、「芸術の発達」の章の翻訳をおこなった。2016～2020年に岐阜県の損斐幼稚園のアートプロジェクトのシンポジウムに参加した。これまでの子どもの描画研究のデータを整理し、保育者向けの雑誌における描画発達のプロセスについての記事の監修をおこなった。そのほか、雑誌、書籍、新聞等に向けての論考の執筆をおこなったほか、保育や教育の実践者を対象とした講演をおこなった。また、アートワークショップを考案し、実施した。

4. 研究成果

(1) アーティストの制作過程における想像と創造

想像力と創造性の関係、「見る」と「描く」の関係など、表現と鑑賞に関わる認知のしくみについて、さまざまな分野のアーティストの言葉を参照しながら考察し、雑誌『図書』（岩波書店）に「ルビンのツボ」として論考を連載執筆、後日、一般向けの図書として刊行した（引用文献 ）。

アーティストの表現活動について認知科学の視点からの考察を執筆し、雑誌『月刊アート・コレクターズ』の展覧会レビューという形で4本の論考を発表した（引用文献②～⑤）。

表現とはなにか、コロナ禍のなかでの表現の役割についてなどを考察し、新聞や書籍等への論考の執筆をおこなったほか、アーティストとのトークなどもおこないオンラインでも配信された。演劇史を鑑賞者側の視点からとらえた高山明著『テアトロン』についての書評論考を執筆し、視覚芸術とは異なり、考古学的証拠の残りにくい芸術である演劇について、どのような認知基盤のもとに生まれたのかを論じた（引用文献 ）。東京大学生産技術研究所のプロジェクト Memu earth lab.における成果の一部として、インタビュー映像が公開された。

(2) アートの認知的な基盤についての進化的考察

チンパンジーの描画行動やヒトの描画発達についての研究を軸に、考古学の知見とも総合しながら、人類史のなかでアートがどのような認知発達の基盤の上に誕生し、ほかの行動に影響をもたらしたのかについてまとめたレビュー論文が刊行された（引用文献 ）。また、チンパンジーの物遊び行動についての実験データを分析し、とくに見立て遊びと描画における表象スキーマの構造との共通点を論じながら、人類進化のプロセスにおいて、物遊び、道具使用、道具制作、言語という4つの行動の進化によって、アートに関わる認知基盤が発達し、ホモ・サピエンスで開花したという仮説について論じた（引用文献 ）。2018年に「ヒト以外のヒト科の絵画展：ART AND APES」を開催し、大型類人猿の絵画作品の展示の監修をおこなったほか、作品だけでなく、大型類人猿に関する研究成果も一緒に学ぶことができるように工夫し、期間中に講演会やワークショップもおこなった。日本モンキーセンターで開催中の霊長類アート展にも出品協力し、展示の監修と講演をおこなった。沖縄科学技術大学院大学で実施された人工知能美学芸術展に出品協力し、講演等をおこなった。芸術の進化的な起源」についての論考から、人工知能と芸術の関係について考察した論文が人工知能学会誌のAI美学・芸術特集に掲載された（引用文献 ）。

(3) アートの認知的な基盤に基づく保育や美術教育のあり方の検討

『児童心理学・発達科学ハンドブック』において、描画の発達過程、およびアート教育の歴史と各国の比較についてまとめた章の翻訳をおこなった（引用文献 ）。ヒトが「つくる」ことの進化的な意義について保育学会で発表したほか、損斐幼稚園のアートプロジェクトのシンポジウムに参加し、保育士やアーティストらとともに、保育や美術教育のあり方について議論を重ねた。子どもの絵の発達について、保育者向けの雑誌『学研はいくあっぷ』の特集号の監修と、資料の提供をおこなった。ほか、これまでの研究に基づいて、保育や教育における描画や表現活動の意義や役割について検討し、書籍や一般向けの雑誌等での執筆を通して論考を発表したほか、一般向けの講演やワークショップをおこなった。

<引用文献>

齋藤亜矢（2019）ルビンのツボ 芸術する体と心，岩波書店。

- 齋藤亜矢. (2022). 自然の痕跡. 『月刊アートコレクターズ』(2022年5月号)158:108-109. 生活の友社,2022年4月25日,ISBN:4910113990524
- 齋藤亜矢. (2022). すべてが自分の場所を持っている. 『月刊アートコレクターズ』(2022年8月号)161:126-127.生活の友社,2022年7月25日 ISBN:4910113990821
- 齋藤亜矢. (2022). 駄々っ子のなみだ. 『月刊アートコレクターズ』(2022年11月号)164:132-133.生活の友社,2022年10月25日,ISBN:4910113991125
- 齋藤亜矢. (2022). コラージュと夢. 『月刊アートコレクターズ』(2023年2月号)167:150-151.生活の友社,2023年1月25日 ISBN:4910113990234
- 齋藤亜矢. (2022). 演劇する心の起源. 東京藝術大学大学院映像研究科紀要『LOOP 映像メディア学』Vol.13. 419-429. ISBN:978-4-86528-370-9
- Saito, A. (2021). Archaeology of the artistic mind: From evolutionary and developmental perspectives. *Psychologia*, 63 (2): 191-203. <https://doi.org/10.2117/psysoc.2021-B018>
- 齋藤亜矢. (2022).遊びからアートへ:人類進化における認知的ニッチ構築. 心理学評論 65 (2), 235-246, ISSN: 0386-1058
- 齋藤亜矢 (2018) 芸術の進化的な起源, 人工知能, 33 (6), 754-761.
- ラーナー, R. M. (編集主幹) リベン, L. S. (編)・ミューラー, U. 編 (2022). 二宮克美・子安増生 (監訳), 郷式徹・山祐嗣 (編訳) 『児童心理学・発達科学ハンドブック』 福村出版 (Lerner, R. H. (Ed.) (2015). Handbook of child psychology and developmental science. Wiley.) 第2巻 21章「芸術の発達 Artistic Development」(Constance Milbrath, Gary E. McPherson, and Margaret S. Osborne / 訳: 齋藤亜矢・谷口高士) pp.1339-1407, ISBN 9784571235108

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 65
2. 論文標題 遊びからアートへ : 人類進化における認知的ニッチ構築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 235-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 SAITO Aya	4. 巻 63
2. 論文標題 ARCHAEOLOGY OF THE ARTISTIC MIND: FROM EVOLUTIONARY AND DEVELOPMENTAL PERSPECTIVES	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PSYCHOLOGIA	6. 最初と最後の頁 191-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2117/psysoc.2021-B018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 13
2. 論文標題 演劇する心の起源	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京藝術大学大学院映像研究科紀要『LOOP 映像メディア学』	6. 最初と最後の頁 419-429
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 96
2. 論文標題 からだの言葉で人間を理解する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アステイオン	6. 最初と最後の頁 198-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 168
2. 論文標題 人間の芸術への衝動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術の窓	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 158
2. 論文標題 自然の痕跡 (伊藤存、かなもりゆうこ、長島有里枝)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊アートコレクターズ	6. 最初と最後の頁 108-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 161
2. 論文標題 すべてが自分の場所を持っている (ペンティ・サマラッティ)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊アートコレクターズ	6. 最初と最後の頁 126-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 164
2. 論文標題 駄々っ子のなみだ (岡本太郎)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊アートコレクターズ	6. 最初と最後の頁 132-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 167
2. 論文標題 コラージュと夢 (伊藤桂司)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 月刊アートコレクターズ	6. 最初と最後の頁 150-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 35
2. 論文標題 多面体をころがすような	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ニューサポート高校「国語」	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 6
2. 論文標題 雑木林と芸術	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢, 三浦努, 北浦弘人	4. 巻 -
2. 論文標題 「青谷びとが描いた世界～青谷上寺地遺跡と青谷横木遺跡～」の記録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報 2019	6. 最初と最後の頁 21-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 2021年2月号
2. 論文標題 アートは「!」である	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 母の友	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 5(1)
2. 論文標題 言いサルの秘密	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 33
2. 論文標題 芸術の進化的な起源	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人工知能	6. 最初と最後の頁 754-761
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 831
2. 論文標題 ルビンのツボ 第10回 わかる、わからない	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 832
2. 論文標題 ルビンのツボ 第11回 在と不在	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 833
2. 論文標題 ルビンのツボ 第12回 上手い、おもしろい	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 834
2. 論文標題 ルビンのツボ 第13回 木を見る、森を見る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 835
2. 論文標題 ルビンのツボ 第14回 仮想と現実	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 836
2. 論文標題 ルビンのツボ 第15回 二次元と三次元	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 837
2. 論文標題 ルビンのツボ 第16回 要、不要	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 838
2. 論文標題 ルビンのツボ 第17回 単純と複雑	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 839
2. 論文標題 ルビンのツボ 第18回 主観と客観	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 3
2. 論文標題 自然と芸術 第6回 絵筆をもった類人猿	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 3
2. 論文標題 自然と芸術 第8回 隠岐の自然と芸術	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 3
2. 論文標題 自然と芸術 第9回 ヒト以外のヒト科の絵画展	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 モンキー	6. 最初と最後の頁 92-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 81
2. 論文標題 チンパンジーの絵から芸術の起源を考える (特集 ヒトと動物の芸術心理学)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心理学ワールド	6. 最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 497
2. 論文標題 リレーコラム15 見る・視る・観る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都国立近代美術館ニュース『視る』	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 822
2. 論文標題 ルビンのツボ 第1回 サイエンスの視点、アートの視点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 38-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 823
2. 論文標題 ルビンのツボ 第2回 洞窟壁画とアール・ブリュット	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 824
2. 論文標題 ルビンのツボ 第3回 手の想像、目の想像	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 825
2. 論文標題 ルビンのツボ 第4回 考える、考えない	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 826
2. 論文標題 ルビンのツボ 第5回 自由と不自由	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 827
2. 論文標題 ルビンのツボ 第6回 からだところ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 828
2. 論文標題 ルビンのツボ 第7回 自然の美、人工の美	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 829
2. 論文標題 ルビンのツボ 第8回 「美しい」と「怖い」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書（岩波書店）	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 830
2. 論文標題 ルビンのツボ 第9回 弥生人と絵文字	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書（岩波書店）	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤亜矢	4. 巻 2017年度
2. 論文標題 チンパンジーに学ぶ造形表現のコツ 絵を描く心の進化と発達	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東洋英和女学院大学保育子ども研究	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計35件（うち招待講演 24件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 齋藤亜矢・小町谷圭
2. 発表標題 岩に何を見立てるのか: ヒトのパレイドリア特性についての検討
3. 学会等名 第8回出ユーラシアにおける統合的人類史学全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 人間にとっての「つくる」「たべる」「おしゃべりする」
3. 学会等名 保育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 芸術するところの科学2：ヒトはなぜ動物を描くのか
3. 学会等名 京都芸術大学文明哲学研究所．芸術研究の世界#13
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 「子どもの描画表現を読み解く」, ~描きたい気持ちを支える工夫や環境とは~
3. 学会等名 長野県岡谷市保育協会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 チンパンジーとピカソにアートを学ぼう！
3. 学会等名 シビックイノベーション拠点 スナバ Workshop Terminal vol.3（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 チンパンジーに学ぶアート
3. 学会等名 群馬県私立幼稚園・認定こども園協会夏季研修（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 動物を描くこころ、精霊を描くこころの起源
3. 学会等名 国立民族学博物館「『描かれた動物』の人類学」2021年度第1回共同研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 絵を描くこころの起源を探る
3. 学会等名 沖縄県立博物館・美術館，博物館文化講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 「戦争体験画」がもつ力：認知科学の視点から
3. 学会等名 NHK文研Teams勉強会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 描画の起源とプロジェクション
3. 学会等名 第14回プロジェクション・フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 びからアートへ：チンパンジーの物遊びからの考察
3. 学会等名 「出ユーラシアの統合的人類史学-文明創出メカニズムの解明-」第6回全体会議
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 個と集団：遊びからアートへ
3. 学会等名 国立民族学博物館「『描かれた動物』の人類学」2021年度第4回共同研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 芸術する心の起源から考える描画療法
3. 学会等名 AIP workshop福祉サロン（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 認知特性を比較するための描画課題の検討 (2)
3. 学会等名 「出ユーラシアの統合的人類史学-文明創出メカニズムの解明-」第4回全体会議
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 表現遊びで育まれる心：認知科学の視点から
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 学際的なフィールドワークから「描画」を考える
3. 学会等名 フィールドネット・ラウンジ (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 認知特性を比較するための描画課題の検討
3. 学会等名 出ユーラシア第二回全体会議
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aya Saito
2. 発表標題 Drawing tests to evaluate the cognitive traits of people from different backgrounds.
3. 学会等名 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 絵筆をもったチンパンジー：絵を描く心の進化と発達
3. 学会等名 浄土真宗本願寺派まことの保育 第32回全国保育大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 ア・ト (表現活動、表現遊び) は子どもにとってどのような意味があるのか
3. 学会等名 揖斐幼稚園 林武史ワークショップ・ラウンドテーブル (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 芸術する心の起源
3. 学会等名 京都保育問題研究会美術部会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤亜紗、齋藤亜矢、玄田有史
2. 発表標題 『表現する』ということ、『伝える』ということ - どもる×チンパンジー -
3. 学会等名 サントリー文化財団学芸ライブ, 東京 第2回 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 絵筆をもったチンパンジー：ヒトはなぜ絵を描くのか
3. 学会等名 日本モンキーセンター特別講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 ヒトはなぜ絵を描くのか
3. 学会等名 桑名市保育士会研修会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤亜矢
2. 発表標題 想像は創造の母? : 絵を描く心の進化と発達
3. 学会等名 第17回大学リレーセミナー (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 絵筆をもった類人猿
3. 学会等名 Arts and Apes 展トークイベント
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 「芸術の起源」の現在と未来：チンパンジーとヒトの描画研究から
3. 学会等名 東京藝術大学芸術情報センター「メディア特論：アート+」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 芸術の進化的起源：人間はなぜ絵を描くのか
3. 学会等名 にいがた市民大学（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 絵を描く心の進化と発達
3. 学会等名 京都造形芸術大学こども芸術大学瓜生山セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 想像する心の起源 ヒトはなぜ絵を描くのか
3. 学会等名 京都国際福祉センター治療教育講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 ヒトはなぜ絵を描くのか - 芸術認知科学への招待
3. 学会等名 第54回全国幼年美術の会 夏季大学（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 ヒトはなぜ絵を描くのか
3. 学会等名 中京保育研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 絵を描く心の起源を探る：チンパンジー、子ども、クロマニヨン人、そして青谷びと
3. 学会等名 青谷かみじち遺跡土曜講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 絵を描く心の起源を探る
3. 学会等名 第12回人工知能美学芸術研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤 亜矢
2. 発表標題 絵を描くこころの起源
3. 学会等名 第38回京都保育問題研究会講座（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 リチャード・M・ラーナー、ウイリス・F・オーヴァートン、ピーター・C・M・モレナー、リン・S・リベン、ウルリック・ミュラー、マイケル・E・ラム、マーク・H・ボーンスタイン、タマ・レーヴェンサール、二宮 克美、子安 増生、河合 優年、服部 環、郷式 徹、山 祐嗣、小塩 真司、仲 真紀子、根ヶ山 光一、氏家 達夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 6068
3. 書名 児童心理学・発達科学ハンドブック	

1. 著者名 小田 亮、橋彌 和秀、大坪 庸介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 進化でわかる人間行動の事典	

1. 著者名 日本文藝家協会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 光村図書出版	5. 総ページ数 360
3. 書名 ベスト・エッセイ2020	

1. 著者名 岩波書店編集部	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 108
3. 書名 3.11を心に刻んで 2021	

1. 著者名 齋藤 亜矢	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 158
3. 書名 ルビンのツボ	

1. 著者名 松沢 哲郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 278
3. 書名 心の進化を語ろう	

1. 著者名 人工知能美学芸術研究会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 人工知能美学芸術研究会	5. 総ページ数 176
3. 書名 人工知能美学芸術展 記録集	

1. 著者名 日本文藝家協会編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 光村図書出版	5. 総ページ数 376
3. 書名 ベスト・エッセイ 2018	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------